

サル痘患者の発生について

都内在住で、発熱・発疹・リンパ節腫脹等の症状を示し、令和4年9月20日、都内の医療機関を受診していた方について、同日、検査の結果、サル痘の陽性が確定しました。

なお、報道機関各位におかれましては、患者様やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。医療機関への取材や直接のお問い合わせはお控えください。

【患者の概要】

年 代：60代

性 別：男性

居住自治体（居住地）：東京都

症 状：発熱、頭痛、背部痛、発疹、リンパ節腫脹

海外渡航歴：なし（発症前に海外から日本を訪問中の者との接触歴あり。）

患者の状況：発疹の症状が認められるものの、状態は安定しています。現在、都内医療機関において入院中です。

【サル痘とは】

- ・ サル痘は、サル痘ウイルスによる感染症で、中央アフリカから西アフリカにかけて流行しています。日本では感染症法上の四類感染症に指定されています。
また、2022年5月以降、欧州や米国等で市中感染の拡大が確認されています。
- ・ サル痘の潜伏期間は6～13日（最大5～21日）とされており、潜伏期間の後、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、筋肉痛などの症状が0～5日続き、発熱1～3日後に発疹が出現、発症から2～4週間で治癒するとされています。
- ・ サル痘の流行地では、げっ歯類やサル・ウサギなどの動物との接触や、感染が疑われる人の飛沫・体液等を避ける、手指衛生を行うなど、感染予防対策を心がけ、感染が疑われる場合には、直ちに医師の診察を受けてください。